

縄文庄の取り組みとインドとの展開について

私たち「縄文庄」は、今後失われてしまう可能性のある山間部の農業を、どのように未来へ引き継ぐことができるのか。その可能性を模索し、具体的な取り組みを進めるために立ち上がった団体です。

山間部の農業が衰退するということは、単に農村部が消えるという話ではありません。そこには土地に根ざした暮らしや文化、地域を支えてきた知恵があり、それらが失われれば、日本全体の農業の土台や伝統的な文化までもが失われてしまいます。

私たちは、四国・愛媛県南予地方という山間地域に拠点を置き、全国の有志の方々と連携しながら、地域農業や暮らしの持続可能なかたちを模索しています。社会全体が抱えるこうした大きな課題に対して、私たちにできる小さな実践から、新しい時代の流れをつくっていければと考えています。

「縄文庄」という名前には、日本人が長い年月の中で育んできた自然との関わり方や価値観を、今の時代にあらためて見直し、私たちならではの感性や知恵を、これからの社会づくりに活かしたいという想いを込めています。そうすることで、日本人としてのアイデンティティや誇りを再発見し、世界に対しても独自の形で貢献していけると信じています。

その一環として、私たちは今回、インドとの交流に取り組もうとしています。

日本とインドは、数千年にわたる思想や宗教、哲学の分野でつながりがあるだけでなく、近代史においても互いの独立を支え合った関係があります。インドは、長い植民地時代を経て独立し、今では世界有数の経済大国へと成長しています。

一方で、日本は戦後、経済的には発展したものの、精神的な面では自立した社会像を見失いつつあるようにも感じます。今求められているのは、経済や効率を最優先する社会ではなく、人とのつながりや精神的な豊かさを大切にしたい生き方や社会のあり方ではないでしょうか。

私たちは、そうした考えに基づいた「縄文庄的な」ライフスタイル——物質的な豊かさよりも、人間らしい暮らしや精神的な価値を重視する生き方——を軸に、次の時代にふさわしい社会のあり方を模索、提案してまいります。

そのためにも、多様な価値観が今も息づく国・インドと協力しながら、日本とインドがそれぞれの強みを活かし、新たな時代の価値観を世界へ発信しながら、新しい未来を共につくっていきけるような取り組みを進めていきたいと考えています。